

滋賀医科大学

▼ 熊本地震に係る支援活動の概要

1.DMAT

4月16日の本震後、出動準備のため参集。本学は待機順で5番目のため、解散し自宅待機へ移行。その後、4月18日に滋賀県のDMAT待機は解除。



DMAT出動準備の様子

2.DPAT(心のケアチーム)

滋賀県から、DPAT(心のケアチーム)派遣要請を受け、医師・看護師・精神保健福祉士で構成されるチームの派遣を決定。5月6日～10日と5月12日～16日に派遣。

派遣先	派遣期間	派遣人数
希望ヶ丘病院(御船町)	5月6日～5月10日	4名(医師1名・看護師2名・精神保健福祉士1名)
熊本県精神保健福祉センター(DPAT調整本部)	5月12日～5月16日	4名(医師1名・看護師2名・精神保健福祉士1名)



3.その他、各機関からの要請等への対応

- ・日本産科婦人科学会から産婦人科医師の派遣依頼があり、産婦人科医師1名を派遣。(5月8日～5月15日)
- ・滋賀県病院協会から災害拠点病院に対して救護班派遣要請を受け、5月12日出発で調整。その後、全国知事会による必要な支援体制が整ったため、救護班の派遣中止。
- ・日本看護協会「災害時支援ネットワークシステム」に基づき、滋賀県看護協会からの看護師派遣要請を受け、看護師3名を順次派遣。(4月29日～5月8日)

4.支援物資の提供

「災害時等における大学病院間の相互支援に関する協定」に基づき、九州大学病院(九州ブロック幹事校)から、熊本大学医学部附属病院への物資支援要請を受け、物資発送の調整を開始。その後、現地での飲み水確保や患者給食が調理可能になったため、各大学病院からの支援物資発送は中断。

5.義援金募集

寄附先	金額	団体
日本赤十字社滋賀県支部	3,000,000円	教職員、学生、本学医師会

6.被災大学の学生・教職員支援、被災者への支援(住宅提供等)

被災した地域の大学・医療機関等に所属している学生・教職員で、滋賀県や近隣府県に帰省・避難している方々に対し、臨時的「図書館利用証」を発行し、館内資料の貸出、閲覧等のサービスを提供した(利用者は0名であった)。